

1. 大分県杵築市(きつきし)の概要

人口:30,111人 世帯数:13,567世帯 面積:280.06平方キロメートル

【近年の傾向】

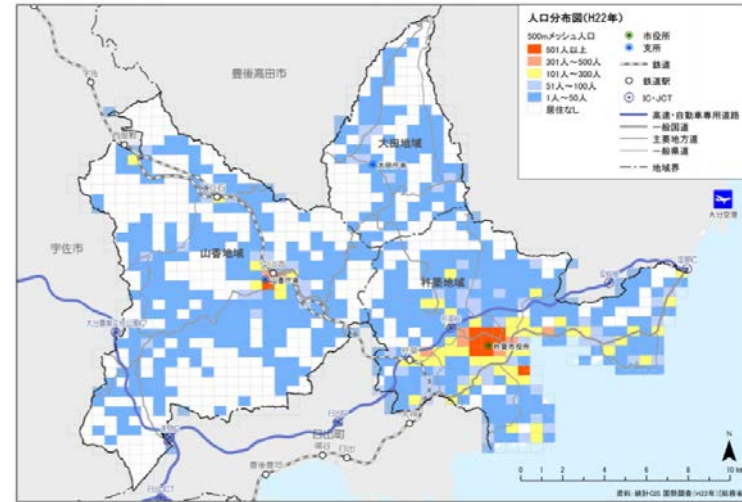
杵築市は、平成17年10月に1市1町1村が合併し、新市としてスタートしました。

この間、**人口の減少(H17 33,567人→H27 30,434人)と高齢化(H17 29.22%→H27 34.19%)が進んでおり**、杵築市が昨年取りまとめた総合計画においても、「**少子高齢化の進展と人口減少社会の到来**」と題して、重要課題として位置づけられています。

杵築市の人口分布は市中心部に比較的集積しているが、市周辺部で中山間地である旧町と旧村にも約1/4強人口が分布していますが、**人口減少と高齢化が著しく、旧町では高齢化率が40%を超え、旧村では50%を超えています。**

また、市内総生産額も段々と減少している状況(H17 1,203億円→H23 953億円)にあります。

財政面では、財政力指数は0.339と自主財源が少ない状況であり、地域経済の活性化による税増収や将来的に更に求められる社会保障や福祉への負担の抑制が喫緊の課題となっています。



2. 地域課題とその背景

- 杵築市では、**地域課題である「地域経済の活性化」、「移住者受入」、「地域福祉」、そして「観光客の滞在時間の延長」**に力を注いでいます。
- 地域経済の活性化としては、杵築ブランド「きつきのきつき」を立ち上げ、地域の産品を市外特に首都圏マーケットに出荷する「販路開拓」の取り組みを、首都圏バイヤーなどの協力を得ながら行っております。
- 移住者受入としては、移住定住補助、空き家バンク、地域おこし協力隊受入、兼業農家になれる移住パッケージに加えて、もともと離職率の高い県内9つの児童養護施設の卒園者を、後継者不足の市内の農業者に迎え入れる就農支援事業などに取り組んでいます。
- 地域福祉としては、「生涯生産者のまちづくり」を掲げて、(作業分担などにより)高齢になってもいつまでも生産に関わることで、介護予防、経済的不安の解消、生きがいづくりなどができるコミュニティを目指しています。
- 杵築市は、旧杵築藩の城下町があり、「坂のある城下町」、「着物の似合う城下町」(着物レンタル年間1万人利用)として海外などから多数の訪問客があります。しかしながら、滞在時間が2時間程度と短く、地域経済への波及効果が限定的です。周辺地域などでの体験型観光と組み合わせ、滞在時間の延長を図りたい。
- **上記のいずれにおいても、人口減少と高齢化が進む市内のリソースだけでは、実現することは容易ではないと考えています。杵築市の取り組みを知ってもらい、都市との交流を増やしていかなければなりません。(地域課題解決のカギ)**

3. シェアリングエコノミー活用に係る方向性・課題等

- 杵築市の地域課題を解決するためには、都市との交流は不可欠と考えています。本市は、世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」の地であり、この営みの一部として行われている上記取り組みを、都市や周辺部の方々に**教育・体験型ボランティア・ツーリズム**として、参加してもらえないかと考えております。
- 例えば、「シイタケの駒打ちと榎木組み上げ」、「草刈りなどによるため池周の保全」、「茄子の棒組立ての手伝い」、「牡蠣殻の洗浄」など、地域や作業についてきちんとレクチャー(歴史・文化などの教育)をしてから、作業をボランティアとして手伝っていただきます。都市部に住んでいるとできない体験ばかりです。
- **杵築市の城下町観光と合わせて、教育・体験型ボランティア・ツーリズムを体験していただくことで、滞在時間が延長し、経済波及効果も高まるのではないかと見込んでおり、参加者募集においてシェアリングエコノミーの活用ができな模索中です。**